

2026.1.25.



NPOフォーラム だより No.120

NPO法人安房文化遺産フォーラム（共同代表：愛沢伸雄, 池田恵美子）

〒294-0045 千葉県館山市北条 1721-1 TEL&FAX：0470-22-8271

E メール awabunka@awa.or.jp 公式サイト <https://awa-ecom.jp/bunka-isan/>

会員・寄付募集中！ 年会費＝正会員 A:10,000 円（総会議決権あり）・準会員 B:2,000 円・法人 10,000 円
（ゆうちょ銀行口座：00260-1-97307 名義 NPO 法人安房文化遺産フォーラム）

令和7年度 文化庁 Innovate MUSEUM 事業の助成を受け、和歌山県立近代美術館、全米日系人博物館などとともに、移民史・水産史・美術史をめぐる広域連携に取り組んでいます。

実行委員会メンバーとして、9月には館山・南房総・和歌山・太地をめぐり、10月にはモンレー・ロサンゼルスを訪し、調査・交流をおこないました。

シンポジウム

移民がつなぐ太平洋まると博物館

～ 紀州と房州とカリフォルニア ～

2月11日（祝水）13:30-16:00 南総文化ホール 小ホール 参加無料

明治期より太平洋をわたり、冷たい海で器械式潜水を導入し
活躍したアワビ海士と、画家らのつむぐ物語に耳を傾けよう。

<登壇者>

- ・大場俊雄（元千葉県水産試験場技師）
- ・櫻井敬人（和歌山県太地町歴史資料室）
- ・奥村一郎（和歌山県立近代美術館）
- ・青木加苗（和歌山県立近代美術館）

- ・愛沢伸雄（NPO 法人安房文化遺産フォーラム）
- ・鈴木政和（NPO 法人安房文化遺産フォーラム）
- ・山口正明（NPO 法人安房文化遺産フォーラム）

<コーディネーター>

- ・池田恵美子（NPO 法人安房文化遺産フォーラム）

主 催：和歌山移民研究を軸とした国際交流事業実行委員会

連携団体：和歌山県立近代美術館、和歌山県太地町教育委員会

NPO 法人安房文化遺産フォーラム、全米日系人博物館

後 援：南房総市、南房総市教育委員会、館山市、館山市教育委員会、

南房総市観光協会、館山市観光協会、房日新聞社

日系アメリカ人市民同盟モンレー半島支部

第90回知恵袋講座

和歌山と千葉安房の歴史教育交流会

<ハイブリッド方式>

2月21日（土）13:30～15:30 オンライン／豊津ホール（館山市宮城 192-2） 参加費無料

和歌山県歴史教育者協議会の現役教員は、この文化庁事業を通じてアメリカへの研修・現地調査に参加し、授業づくりをおこなっています。一方、千葉県歴史教育者協議会では当 NPO が安房支部活動を担っています。移民と美術をテーマとして教育実践を共有し、共生社会のあり方について考えるとともに、広域的・国際的な視点へ広がる地域史教育について協議する機会です。

全国の NPO 会員、千葉県歴教協会員も、オンライン参加で視聴できると同時に、会場での参加も可能です。Zoom ミーティング ID: 889 0774 7684 パスコード: 918089

<和歌山県歴史教育者協議会> 田城賢司、山口泰平、日野和樹、寺前駿

<安房文化遺産フォーラム> 愛沢伸雄、池田恵美子、鈴木政和、山口正明



もや 舫う移民——紀州、房州、モンレーを結ぶ海の物語

「舫い」とは、船をつなぎ留めることを指し、共同作業や協力をも意味する言葉です。

その底流には人と人とのつながりや助け合いの精神が含まれます。

…… 太平洋を渡ったアワビ海士たち ……

1897年、小谷源之助・仲治郎兄弟をリーダーとする房総アワビ漁師らは、千葉県安房地域から米国モンレー地域へ渡りました。寒流のカリフォルニア海流でヘルメット型の器械式潜水を導入し、アワビ漁に成功しました。資産家A.M.アーレンとの共同事業で缶詰会社を興し、日本人排斥の機運が高まるなかでも特別に事業継続が認められていました。風光明媚なコダニ・ゲストハウスには尾崎行雄や竹久夢二などの政治家や文人墨客が滞在し、皇族らも立ち寄り、日米親善の架け橋となりました。源之助と姻戚にあたる小園千浦（おばたちうら）や、和歌山出身のヘンリー杉本などアメリカで活躍した日系人画家たちとも親交を深めています。

戦争を経てこの歴史は忘れられていましたが、1994年、アメリカ社会に貢献した日本人として小谷源之助が顕彰され、彼らが住んでいた土地はカリフォルニア州立自然保護区内で「コダニ・ビレッジ」と正式に命名されました。日米の国旗とUSAの文字が染められた「万祝（まいわい）」という漁師の晴れ着は、房州とモンレーの人々が育んだ友情の証として今も大切に残されています。



潜水夫によるアワビ漁

一方、和歌山県紀南地域からも多くの漁民が渡米し、ロサンゼルスを中心に活躍したことが知られています。

今回、日米の多様なミュージアムが協働し、移民史・水産史・美術史をテーマに調査や交流がおこなわれました。黒潮でつながる房総半島と紀伊半島、そして太平洋をはさんで向かい合うモンレー半島の人々が、海を越えてクロスオーバーし共生した姿が、生き生きと浮かび上がってきました。現代の交流につながる壮大な物語を、展覧会とシンポジウムでお楽しみください。

1964年、カリフォルニア州水産局水産試験場技師のキース・コックスさんが来日し、川口（南房総市千倉町）の漁業協同組合に同年新設されたばかりのアワビ・サザエ・イセエビなどの養殖池を視察調査に訪れた。

このとき、コックスさんは「米国で初めてアワビを採取した潜水夫は千葉県南部の人で、米国の水産界に貢献したアワビ漁の先駆者だ」と話したという。これを聞いた関係者らが知人をたどり、小谷源之助・仲治郎兄弟の功績が地元で知られるようになった。

当時、千葉県水産試験場でアワビ種苗の技術開発に取り組んでいた大場俊雄さんは、たいへん興味を抱き、以来半世紀を超えて渡米アワビ漁師や潜水漁業の調査研究をライフワークとしてきた。

大場さんが上梓した著書は『房総の潜水器漁業史』（1993年）、『房総アワビ漁業の変遷と漁業法』（1995年）、『あわび文化と日本人』（2000年）、『早川雪洲－房総が生んだ国際俳優』（2012年）、『房総から広がる潜水器漁業史』（2015年）など多数にのぼる。

渡米した小谷兄弟は根本（南房総市白浜町）出身であるが、弟の仲治郎は9年間の滞米後に帰国して千田（南房総市千倉町）に暮らし、多くの潜水夫を養成してアメリカの兄源之助のもとへ送りだした。

千田に生まれ育った鈴木政和さんと山口正明さんは、大場さんの著書を読んだことをきっかけに、郷土の先人たちに関する調査研究を追い続けた。

二人が所属するNPO法人安房文化遺産フォーラムは、地域の歴史文化遺産の調査・保存・活用をとおして教育支援やまちづくりを進めるエコミュージアム（館山まるごと博物館）活動に取り組んでいる。2018年に仲治郎の旧宅を解体する際、襖の裏張りから大量の古文書を発見し、台風被災とコロナ禍を乗り越えて、530枚の解説調査をおこなった。これにより、兄弟の渡米前の様子や事業、人脈などが明らかになってきた。

そして今年度は、「和歌山移民研究を軸とした国際交流事業実行委員会」の文化庁事業に参画し、広域エコミュージアムのネットワーク構築が広がっている。

移民は求められる仕事をするまでのこと。ただしカリフォルニアの森を伐り開いていた日本人の男は気がついた。モンレーの海には大きなアワビがたくさんあるのに、アメリカ人は見向きもしない。男は、アワビをよく知る紀州の男たちを誘って海に入った。男はたくさんのアワビを干して売ることを考え、最新のヘルメット潜水と乾鲍製造の専門家を日本から招いた。やって来たのは房州の男たちであった。

紀州でも房州でも、半島の西の付け根に大都市を抱えていることから、内海ではたくさん船が行き交い、外海に面した浦々では漁業が発達した。海の技能を身につけた先人は、やがて大きな海を越えていった。移民排斥の嵐の中で、何が移民と住民を繋ぎ留めたのか。



All that migrants can do is what they are told. However, one migrant clearing out the Californian forests realized something. Americans did not seem to care, or even notice, the abundant, huge abalone that inhabited the coast of Monterey. The man summoned other Kishu men with knowledge of abalone, and together they entered the sea. He also called on professionals from Boshu to share the latest technology and skills needed for helmet diving and drying abalone.

Both in Kishu and Boshu, where large cities relied on their bordering oceans, boats tirelessly navigated inland waters, and fishing developed in the villages facing the open sea. Equipped with the skills of the sea, our ancestors thus crossed the vast ocean. Yet, what was it that tied together migrants and the local residents of America while the gale of anti-immigration sentiment raged around them?

展覧会

もや舩う移民—

—紀州、房州、モンレーを結ぶ海の物語

* 館山展 2月5日(木)～15日(日)

千葉県南総文化ホールギャラリー

10:00～16:00 休館:月曜 入場無料

* 太地展 2月21日(土)～3月8日(日)

和歌山県太地町立石垣記念館 入場無料

9:00～16:30 休館:月火水、但し2/23(月)は開館

館山展では、期間中の受付スタッフを募集中！午前/午後は13:00交代でお手伝いをお願いします。可能な方は事務局まで連絡をください。



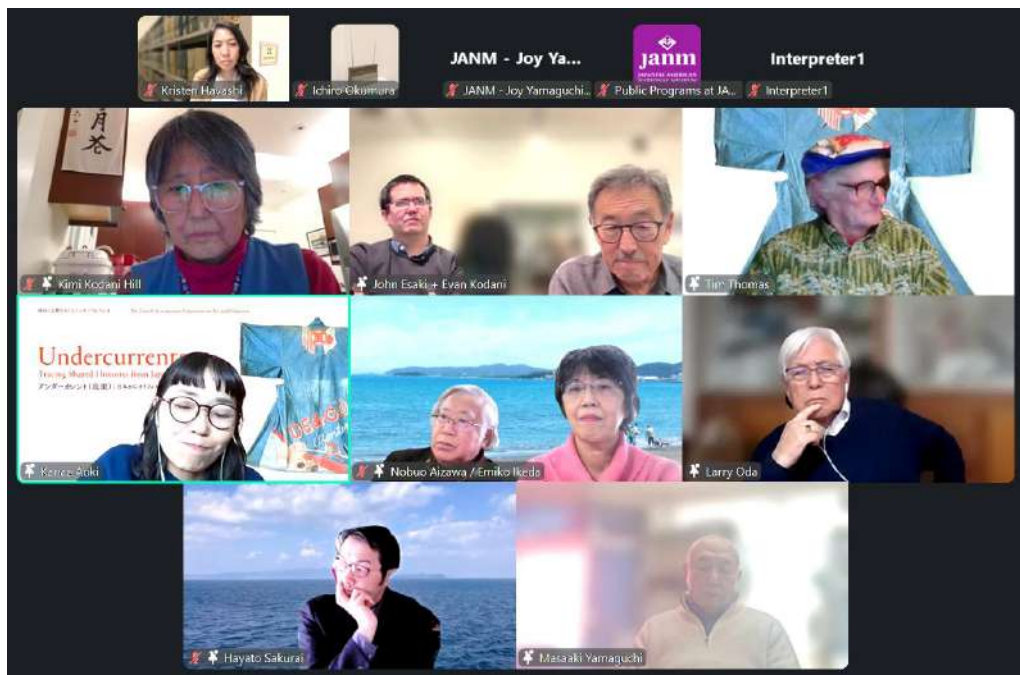
写真上：滝川藤一郎(和歌山県日高郡日高町比井崎村出身)1930年代(ジョン・エナキ氏所蔵)

下：生のアワビをスライスする女性たち(モンレー図書館所蔵)

移民と美術をめぐるシンポジウム Vol. 4

アンダーカレント（底流）：日本からカリフォルニアへ、共有する歴史をたどって

1月18日朝8時（アメリカ時間は17日15時）～、オンライン日米シンポジウムが開かれました。NPO から3名と、モンレーの学芸員や子孫らが登壇し、同時通訳で意義深い交流となりました。録画は日本語と英語の字幕つきで編集され、後日 YouTube で視聴できるのをお待ちください。



セッション1：黒潮が繋ぐ歴史から

- ・モデレーター：青木加苗（和歌山県立近代美術館学芸員）
- ・池田恵美子（NPO 法人安房文化遺産フォーラム共同代表）
「太平洋を越えるエコミュージアムの市民活動」
- ・山口正明（NPO 法人安房文化遺産フォーラム理事）
「モンレーで活躍したアワビダイバーのリーダー」
- ・愛沢伸雄（NPO 法人安房文化遺産フォーラム共同代表）
「房総アワビ移民に関する調査研究の動向」
- ・モデレーター：櫻井敬人（太地町教育委員会学芸員）
- ・ティム・トーマス（日系アメリカ人市民同盟モンレー半島支部ヘリテージセンター学芸員）
「アワビの“ア”：モンレーへの道」
- ・ラリー尾田（全米日系アメリカ人市民同盟会長・日経三世）
「モンレー湾の漁業における日本人たち」



万祝

セッション2：映像と美術からファミリーヒストリーを掘り下げる

- ・モデレーター：クリステン林（全米日系人博物館）
- ・キミ小谷ヒル（小谷源之助と小圃千浦の孫、小圃の研究者）
「アートギャラリー：ポイントロボスの小谷ゲストハウス」
- ・ジョン江崎（前全米日系人博物館アートディレクター・日系三世）
「アワビと家族の宝をもとめて——和歌山 / カリフォルニアのつながり」
- ・エヴァン小谷（全米日系人博物館・小谷源之助の曾孫）
「四世のまなざし—太平洋を越えた 129 年」

【当面のガイドスケジュール】

※NPO 会員はスタッフとして同行也大歓迎！

3/8（日）10:00～12:00 パルスシステム労働組合 8 名 座学・大房岬要塞群

3/28（土）10:30～17:00 千葉建築士会 40 名 座学・掩体壕・ハングル四面石塔・小原家住宅